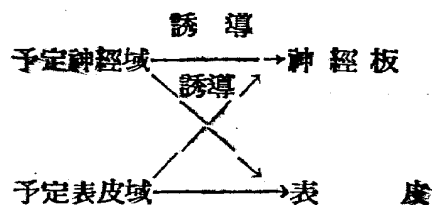


とより考察すれば、原腸胚の豫定外胚葉が、神経化するか表皮化するかは、その RNA 量に依つても決定されるものと考えられる。即ちこれは次の如く表現し得る。



一方 ribonuclease の activity の増加が原腸胚から神経胚に見られたのは誘導と関連して重要と思われる。

(問) RNA と DNA との関係はありませんでしょうか。(長谷川和)

(答) 現在その点についてははつきりしたデータを持つて居りません。

(問 1) 核酸がゆうどうの原因とお考えになる具体的な証拠はお持ちでございますか。(2) 成体内で遊離の核酸の存在は非常に考えにくいと思いますがどうでしょうか。(高浪満)

(答 1) 昨年の山田先生の仕事から確からしく思われる。(2) 遊離の核酸と云うのではなくて遊離した核蛋白と考える。

(問 1) 蛋白部分の相違をもつと考えなければならないのではないのでしょうか。(2) 遊離した RNA が active だとすれば直接それをはかつたらどうでしょうか。(武藤義信)

(答 1) 現在の所蛋白の相違については判つていない。(2) ここでは遊離した核酸と断定したわけではありませんし又それを定量するには Schneider 法-orcinol reaction では不可能。

(問) 腹方帯域の場合でも、35-40ケで定量に充分か。(川上泉)

(答) 抽出する核酸-fraction の volume を少量にすれば充分定量し得る。

兩棲類の初期発生と炭水化物代謝 川上 泉 (九大・理・生)

Brachet, Tamini その他は呼吸、解糖作用毒が Li と同様の影響を胚に及ぼさないから、Li 効果を炭水化物代謝と結び付けることは出来ないと述べている。

兩棲類の胚を用いると、Li はその解糖作用を抑え、一方呼吸を高める。呼吸については Lindahl のユニでの結果は逆に出ているが、*Bufo*, *Rana* で同様の結果を得た。呼吸増加の効果を他の組織に與える 2, 6-dichlorophenol-indophenol を用いると、これでも Li と同様の畸型を生じ、又 *Bufo* の胚で呼吸を高め、解糖作用を抑える。toluylenblue も前 2 者に比べると弱くはあるが同様な畸型形成の作用がある。これでも呼吸解糖作用に上の 2 者と同一傾向の影響を及ぼす。これらの薬品は一般の inhibitors と異り呼吸、解糖作用を破壊するのではなく、單に抑制又は増大即ち量的な影響を與えるものと思われる。決定的には言えないが、これらの薬品處理による畸型形成は呼吸と解糖作用の不均衡によるのではなからうか。

(問) Histochemie で陥入の時 Glykogen がへるというのは御仰せの通り私の経験でもあやしいと思いますが定量的にはやはり 30% 前後の減少があるようです。(大澤省三)

(答) 減少は否定しているのではなく、組織化學では Woerdemann の様にはつきり出ないということです。

蛙の発生初期に於けるアミノ酸代謝に関する研究

中村健兒・高浪 満・北爪由三・今泉 正・廣田猛夫・池谷清一 (京大・理・動)

モリアオガエル卵の外胚期までの 8 段階の卵を 60% アルコールで沈澱部分 (蛋白部分) と上澄 (アミノ酸、ペプチド部分) に分けアミノ酸量の微生物定量を行つた。上澄ではアミノ酸量は受精直後僅かに上昇、その後一定し外胚期に急に上昇する。この間グルタミン酸は量が多いばかりでなく連續上昇し、ゼリンは一時減少する。蛋白部分では構成アミノ酸について見ると比較的安定した 1 群 (バリン、ロイシン、スレオニ